

ワークショップにおける学びに関する 基礎的研究

竹長 健斗¹・田中 尚人²

¹ 学生会員 熊本大学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻
(〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号)

E-mail: 175d8818@st.kumamoto-u.ac.jp

² 正会員 熊本大学政策創造研究教育センター
(〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号)

E-mail: naotot@kumamoto-u.ac.jp

多くのまちづくり活動において、対話は最も基本的なコミュニケーションの形態である。まちづくりワークショップなどにおいても、対話を通じて、よい学びが得られた場合、参加者の満足度は高くなる。本研究では、エピソード記述の手法を用いて、ワークショップ参加者が得た学びを分析し、より良い対話の場づくりに関する諸要件を明らかにすることを目的とする。具体的には、研究対象とした熊本市市民病院再生WSの参加者の学びを、量的、質的に分析した。結果として、各WSにおいては到達目標（学び）を参加者が把握すること、複数回のWSでは、それぞれの回の目標を関連づけ、参加者の学びの状況を次のWSへ反映させることが重要であることが分かった。

Key Words : Workshop, dialogue, meta analysis, participants, quantitatively, qualitatively

1. はじめに.

(1) 背景

さまざまなまちづくり活動において対話は重要な役割を果たしている。また、良い活動を行うにはそれに応じた良い対話の場が必要である。このように良い対話の場作りは、良い活動を生み出すことにつながる。

また、対話の場では参加者がどのような学びを得ているのかが重要視されており、良い対話の場にはそれに応じた良い学びを得た参加者が存在している。

そこで、本研究では、その良い学びを得た参加者に着目する。ワークショップ（以下WSとする）から良い学びを得た参加者の感想を分析することで、良い学びを得ることの出来る対話の場に必要の要件を明らかにする。それにより、良い対話の場作りに関する諸要件を明らかにすることを目的とする。

(2) 既往研究と本研究の位置づけ

これまでの研究において、WSは目的達成のための

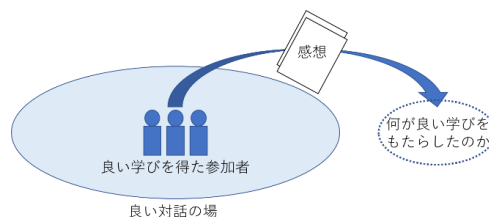


図-1 研究概要

手段として扱われている場合や、WSデザインを扱ったものが多く見られる。前者は横山¹⁾が行ったまちづくりの手段としてWSの効果を扱うものが該当し、後者は森ら²⁾が行ったWSのデザインに関して、すでにデザインに秀でているベテランに着目し、彼らの場のデザインに共通する特徴を検討した研究が該当する。高尾の論文³⁾では、分析を行う際に現場に関わりつつ立場を明らかにする形でメタ的な分析を可能にしている。

また、分析の手法として扱うエピソード記述に関しては村井らの論文⁴⁾で用いられている。ここでのエピソード

ド記述は一般的に教育、保育、介護などの現場の中から質的な分析を行う際に使用される手法として扱われている。本論文は、自らの立場をWSの分析者として定め、WSそのもののデザイン面について参加者、設計者の双方に着目し、WSという現場を質的に分析する方法としてエピソード記述の手法を用いたものと位置づける。

2. 研究の手法

本章では、WSを定義した後、研究の手順や手法、特にエピソード記述について説明した。

(1) ワークショップとは

WSという言葉の定義については、山内らの「ワークショップデザイン論」⁹⁾によると「workshop」という言葉はもともと「工房」という意味を持ち、この工房が持つ「創ることで学ぶ」という側面から「創ることで学ぶ活動」と定義されている。本論文では創ることを目的とし学びを付随させたもの、学びを目的として創ることを方法として扱っているものをWSとして扱う。

(2) 研究手法

本研究の手順としては、実際に行われたWSを対象として、構成そのものの分析を行う。その後、WSの「創る面」に相当する直接目的、「学ぶ面」に相当する間接目的についてWS中の振り返りシートの内容とWS設計者に対してのヒアリングで知ることの出来た情報からWSではどのような直接、間接目的があり目的を達成した過程、結果でどのような学びを得ることが出来たのかについて量的、質的分析を行う。また質的分析に関しては後述で説明するエピソード記述を用いたメタ分析により分析を行う。

エピソード記述とは、鯨岡峻が提唱した手法である。活動に参加した分析者が自らの経験を基に、活動及び結果の分析を行う際に分析者の経験をエピソードとして抜き出し、第3者にも共有できる形としてから分析を行うことを目的としている。この手法により、質的分析を行う際に主観だけではない分析までに至る背景、エピソードの把握が可能となる。また、エピソード記述及びその分析の流れは下図-2のような流れとなっている。

活動を面としてとらえ、そこから自身の興味、関心等を図として抜き出しエピソードとして記述を行う。一連の動作をエピソード記述として扱い¹⁰⁾、メタ的に分析を行ったものを1次メタ分析、さらにメタ的に分析したものを2次メタ分析とする。

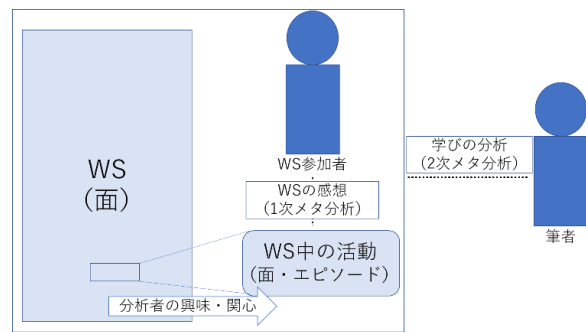


図-2 エピソード記述・分析の手順

(3) 本研究での位置づけ

本節では本研究におけるエピソード記述についての説明した。本論文では図-3のように行われたWS全体を面として扱い、そこからWS参加者の興味・関心によって抜き出されるWS中に行われた活動を図・エピソードとして扱う。ここまでするエピソード記述としてその後WSの参加者が記したWSの感想を1次メタ分析として扱い、これらすべてを見て筆者がさらにメタ的視点より学びの分析を行ったものを2次メタ分析として扱う。

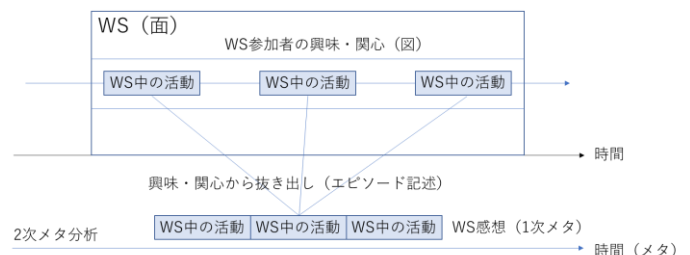


図-3 エピソード記述・分析の手順(本研究)

3. 熊本市市民病院再生WSの背景と目的

研究対象とする熊本市市民病院再生WSの概要とWSが行われた経緯についてまとめた。

(1) 熊本市市民病院の被災状況

本研究の対象となる熊本市市民病院は34科の診療科を持ち全診療科で入院患者数122,752人、外来患者数164,907人(27年度)となっている。平成28年4月14日・16日に発生した熊本地震により、本研究の対象となる熊本市市民病院も被災した。この被災により、病棟の天井や壁の一部崩落、給水施設等の被害により当時入院していた患者310人の患者全てが転院を余儀なくされた。また、総合周産期母子医療センターの休止によって年間約600人以上の妊婦や新生児に対する受け入れが難しくなり県及び九州圏内の7%を占めていた周産期母子医療に対し多大な影響を生じている。⁷⁾

(2) 熊本市民病院再生WSの目的

本WSは熊本地震で被災した市民病院の移転再生にあたり、前職員の3分の2が出向となってしまう、その間のモチベーションを維持することを目的し、病院スタッフ自身が出来ることを考え、計画していくことを目的として行われた。

(3) 熊本市民病院再生WSの構成

表-1に本WSの構成分析を示す。本WSは全3回構成で構成されている。日程に関しては、市民病院の移転、再建を話す有識者会議と並行して行われ、同会議が終了する7月の終了を目安に設定されている。WS間の間隔は震災による疲労や、WSにおける振り返りを行う時間を考慮し、2週間以上設けられている。

また、WSの設計意図については、平成29年1月12日にWS設計者である熊本大学政策創造研究教育センター所属、田中尚人氏に対しヒアリングを行った。ヒアリングの結果、全3回のWSは以下の図-4のような意図で行われていることが分かった。

表-1 熊本市民病院WS構成

	第1回	第2回	第3回
タイトル	こんな市民病院で働きたい	市民病院の〇と×	風通しの良い市民病院に私たちがする
日時	平成28年6月15日	平成28年7月6日	平成28年7月28日
目的	将来のビジョン構想	現状の把握	提案の作成
手法	ワールドカフェ形式	ワールドカフェ形式	KJ法
参加者	医師：7名（10%） 看護：42名（62%） 技師：17名（25%） 事務：2名（3%）	医師：1名（4%） 看護：12名（55%） 技師：3名（14%） その他：6名（27%）	院長、副院長 医師：22名（28%） 看護：40名（52%） 技師：12名（15%） その他：4名（5%）
タイムスケジュール	導入 18:00～18:15 病院移転再生の説明 WSの説明	18:00～18:15 前回の振り返り WSの説明	17:30～17:50 病院移転再生に関する説明 前回の振り返り WSの説明
	アイスブレイク 18:15～18:30	18:15～18:30	17:50～18:00
	WS本題 18:30～19:20 手法：ワールドカフェ	18:30～19:20 手法：ワールドカフェ	18:00～18:50 手法：KJ法 テーマ：目的・関係・人・仕組みづくりの4テーマ
	振り返り 19:20～19:30	19:20～19:30	18:50～19:00

a) 1回目WS「こんな市民病院で働きたい」

1回目のWSでは、市民病院のスタッフが互いに仲間であることを認識してもらうことを間接目的として行われている。WSに行われた手法はワールドカフェ形式であり、WSによってなんらかの結論を出すことを目的としているのではなく、参加者が多くの他参加者と交流し、意見を交わし、お互いの考えを知ることによって市民病院スタッフがお互いを仲間であると認識することが参加者側に対する間接目的となっている。

また直接目的としては、WSのタイトルにもなっている「こんな市民病院で働きたい」という市民病院の将来像を見つけるという直接目的がある。参加者である市民病院スタッフが対話の中で意見の共有、仲間であることの認識をする中で出た、市民病院の将来像を知り、参加者が目指すゴールを見つけることを直接目的としている。

b) 2回目WS「市民病院の〇と×」

2回目のWSでも、市民病院のスタッフが互いに仲間であることを認識してもらうことを間接目的としている。WSで行われた手法は1回目と同じくワールドカフェ形式である。2回目WSからの新規参加の参加者も含めてお互いの考えを知ることによって仲間であると認識することが間接目的となっている。

WSの直接目的については同じくWSのタイトルとなっている「市民病院の〇と×」となっている。こちらは参加者側に対する間接目的を進めていく中で、現在の市民病院の良い点と悪い点を知ることということである。参加者自身が市民病院の現状を対話の中で把握し、現在の市民病院は何が悪い点、良い点なのかを見つけることで1回目WSで見つけたゴールに対しての現状を知ることがWS設計者は直接目的としている。

c) 3回目WS「風通しの良い市民病院に私たちがする。」

最終回となる3回目のWSでは、1回目、2回目を通して互いを仲間であると認識した参加者によって実際の提案を作成することを直接目的としている。WSで行われた手法はブレインストーミングとKJ法を行っており、実際に提案を作成することを重視したものとなっている。

3回目WSでは4つのテーマ「人づくり」「目的づくり」「仕組みづくり」「関係づくり」について話し合いが行われている。このテーマについては2回目WSにてWS設計者が直接目的として知ることの出来た市民病院の現状から来ており、良い点が全体的にまとまっているのに対し、悪い点は均等に分散されていることが分かったことから、3回目の段階ではこの悪い点をテーマ化することで提案を作成することを意図として組み込んである。

また、間接目的として、最終的に具体策を作成することで参加者である市民病院スタッフのモチベーションの向上を図るというものもある。

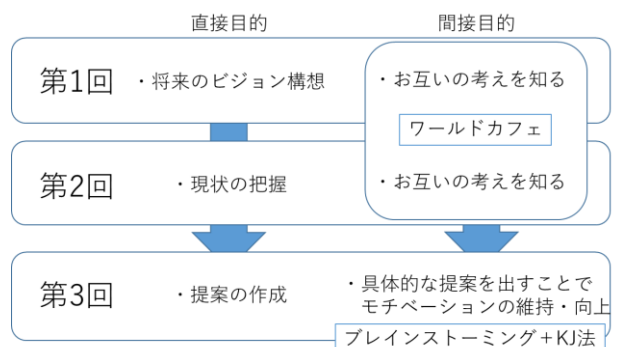


図-4 各WSの構成意図

4. 振り返りシートの 1 次分析

WS後に参加者に記入いただいた振り返りシートを用いて、各項目に対して回答の傾向を分析した。また、WS中の直接目的に対する参加者の解答についても回答と照らし合わせつつ分析を行っている。

(1) 各回の学び

本節では、全 3 回構成で行われたWSの内各回の分析を行ったものである。それぞれ 1 回目「こんな市民病院で働きたい」 2 回目「市民病院の〇と×」 3 回目「風通しの良い市民病院に私たちがする」についてどのようなWSでどのような学びを得ることが出来たかについて表-2 の内容で振り返りシートに記載をお願いし、分析した結果表-2 のようになった。表-3 よりWS各回を通して、参加者が表中の内容に強いに関心を持って参加していたことが分かる。

表-2 振り返りシート内容

対象WS	質問	質問内容
1回目WS	質問1	いいな,共感できる病院像
	質問2	自分の中で変化したこと
	質問3	移転再生による心配事,課題
2回目WS	質問1	あなたが考える,これまでの市民病院で最も評価できるところ,評価すべき特徴は
	質問2	あなたが考える,これまでの市民病院の最も悪いところ,改善すべき点は
	質問3	市民病院再生に関する心配事,課題を好きなだけ書いてください
3回目WS	質問1	あなたが考える,これまでの市民病院で最も評価できるところ,評価すべき特徴は
	質問2	今日話したテーマ,及び一番いいと思った改善策は
	質問3	市民病院の移転再生の意志ある未来について,あなたはどんなことをしますか.またどのようなことをしたいですか

表-3 最も多い感想内容

対象WS	質問	最多の意見
1回目WS	質問1	風通しの良い病院にしたい
	質問2	前向きに考えることが出来た。
	質問3	再建後の病院のあり方
2回目WS	質問1	親しみやすい
	質問2	コスト感覚がない、鈍い
	質問3	情報の共有について
3回目WS	質問1	優しく、親しみがある。
	質問2	関係作り
	質問3	職場の体制、環境づくり

(2) 目的と対比した分析結果

本節では、行われた前 3 回のWSの直接目的と感想を対比し、どのような直接目的のWSであったか、そのWSからどのような理解を参加者が得ることが出来たのかについてWSの感想から分かったことを記載する。表-4, 5, 6 に示すように 1 回目から 3 回目WSまでの直接目的と振り返りシートの結果を比較した結果、3回すべてのWSにおいて、直接目的に対し合致した意見を出していることが分かった。また、直接目的に対し、抽象的でなく、具体的な意見、提案を出している参加者も存在することから、参加者間で学びの量、質に違いが見られた。

また、振り返り中で良い面、悪い面のような 2 つの視点を持つ内容について聞くことで、結果として得られる意見に 2 つの意見の組み合わせ等が生じ、多様性が増すことを確認することが出来た。

5. ワークショップにおける学びに関する考察

3 章 3 節に記載したヒアリング結果より、複数からなるWSの経験に着目した学び及び複数回におけるWSの関連性について考察を行う。

表-4 1 回目WS感想内容

質問内容	解答者	内容
質問 1	看護師	働きやすい環境と人間関係を優先している。風通しのいい病院
	看護師	地域のの人に選ばれる病院、横のつながりを大事にして風通しの良い職場にしたいと思った。
質問 2	看護師	参加されていたみなさんが同じ気持ちで病院の事を考えていることが分かり、前向きに変わった。
	医師	前向きな意見が多く、気持ちが上向きになったと思います。
質問 3	看護師	・診療科はどうか ・3年後？にスキルを保ったままのスタッフが揃うのか
	技師	・診療科はどうなるのか？ ・コンパクトの意味？

表-5 2 回目WS感想内容

質問	参加者	感想内容
質問1	看護師	患者さんが受診しやすい親しみやすさ、敷居の低さもっと気軽に患者さんが集まっていたようにしたい患者さんは人に集まるから。
	技師	患者さんが、慣れ親しんでくれる。
質問2	看護師	・コスト意識が低い、いわれないとない、安心した職場という意識が強いのか！？ ・情報が下の者まで伝わらないことがある。
	その他	職員のコスト意識が低い。病院全体の事を考えている職員が少ない。
質問3	看護師	建て替わってグランドオープンの際にスタッフがスキルを落とさずスタートをされることを望んでいます。
	技師	・災害に強い建物・ベテランが多いという点では良いが逆に新人が少ない。技術が必要ですぐには 1 人前には、ならないため、次の世代を育てるためにも新人を取ってほしい。将来を考えた職員の確用、採用を。 ・患者さんに選ばれる病院へ！！

表-6 3回目WS感想内容

質問	参加者	感想内容
質問1	看護師	・したしみのある病院（患者にとって）患者が一番
	医師	家族的な雰囲気が良い気楽に病院を受診できる。
質問2	看護師	・関係づくり ・体育館 地域の方にも開放し、有効活用しながら職員も健康づくりに使えて面白いと思った。
	医師	関係づくりをどうするのかのテーマでした。 局長などと話す機会を作ったら良いとの意見です。
質問3	技師	スタッフのモチベーションが上がる。モチベーションが継続する職場にする。スタッフが幸せだと患者もついてくる。病院と患者間の距離を縮めるような仕組み窓口の前に担当スタッフの紹介ポスターを貼るなど、スタッフのモチベーションを上げるために設定を持っている人には弁当をつける。お金ではなく患者やスタッフの感謝の気持ちを伝えられる場所を作る。
	看護師	働く人たちが長く仕事出来、良い人づくりをし、患者さんへいい人づくりを反映できるような職場作りをしていきたいと思います。（コンプライアンス+言える雰囲気づくり）

(1) 経験に着目した学びに関する分析

本節では、WSにおける経験に着目した学びの分析を行う、本論文で扱うWSは全3回の構成で行われており、下表-7のような複数のWSの中で経験を積む参加者も存在している。そこで全WS中の複数回参加者を参加者名簿より抜粋し、該当者の感想よりWSに複数回参加することで意見・学びの量、質の違い、単数参加者との比較により、同じく双方間の意見、学びの量、質を分析する。

表-7 複数回参加者

	1回目WS	2回目WS	3回目WS
参加者	67名	22名	78名
1,2回間参加者		1名	
2,3回間参加者			4名
1,3回間参加者			17名
複数回参加者		1名	22名

a) 1, 2回目WS間の参加者

1回目、2回目間のWSの複数参加者は表-5より1名であることが分かる。表-8に複数参加者と単数参加者の中より無作為に1名抽出したものを記す。複数回参加者である看護師Aの意見を見ると、質問1にあるように単数参加者の文量は複数参加者の文量に対し少なめとなっている。内容に関しても良い点、悪い点の二つの質問において複数参加者は複数の解答をしているのに対し、単数参加者は一つのみの解答となっている点が見られ、WSを通して得ることの出来た学びの量及び質に関して単数と複数回参加者間で差が生じていた。

また1回目、2回目の複数回参加者のみに着目したWSの感想を表-9に記す。表中の質問3については、1回目、2回目でそれぞれ同一の内容について聞いたもの

である。1回目WSの質問3では自分のモチベーションとといった漠然とした心配という解答となっているが2回目WSでは自分のやるべきことについて考えると前向きに新病院再開を考えていることが分かり、WSに複数回参加する中で意識に変化があったことが伺える。

表-8 単数・複数回参加者の違い

複数/単数	役職	質問1	質問2	質問3
複数回参加者	看護師A	診療科が多く、安心できるし、スタッフも多くの知識が得られる。患者さんに優しい！！	・指揮系統が悪い ・職員の経営意識が低い	新病院完成までに、市民病院がやるべきことは、何か目標を明確にする必要がある。
単数参加者	技師A	患者さんが、慣れ親しんでくれる。	患者さんのために働くというをおざなりにしているような時があること。	患者さんの交通の便に十分対応できるような建物や立地交通の配慮してほしい。

表-9 1, 2回目連続参加者の意見

対象WS	役職	質問1	質問2	質問3
1回目WS感想	看護師A	困ったときに対応出来る、頼りにされる病院、地域の医師、訪看等と連携できる病院	まず夢（目標）を考えるとからスタートできると感じた	・3年後まで皆のモチベーションを保てるかが心配 ・診療科がどのようになるのか
2回目WS感想	看護師A	診療科が多く、安心できるし、スタッフも多くの知識が得られる。患者さんに優しい！！	・指揮系統が悪い ・職員の経営意識が低い	新病院完成までに、市民病院がやるべきことは、何か目標を明確にする必要がある。

b) 2, 3回目WS間の参加者

2回目、3回目間でのWSにおける複数参加者は表-8の通り5名である。表-10に4名の複数参加者と単数参加者から3名ずつ無作為に抽出したものを記す。複数、単数参加者間では表中にあるように文量の違いがある。将来に向けて行いたいことを示した質問3での複数参加者の文量は平均して52文字であり、対して単数参加者は29文字となっている。

表-11には2回目、3回目の複数回参加者のみに着目したWSの感想を記す。質問1「市民病院の良い点」について聞いている。内容を見ると、2回目で患者について記載している参加者は3回目でも同じように患者について記載しており、スタッフのスキルについて記載している参加者は3回目でも病院の仕事の出来が良いことに触れているなど複数間における意見の関連性が見られる。

c) 1, 3回目WS間の参加者

1回目、3回目間でのWSにおける複数参加者は表-7の通り16名である。表-12には16名の複数参加者と単数参加者から3名ずつ無作為に抽出したものを記す。複数、単数参加者間では表中にあるように文量の違いがある。将来に向けて行いたいことを示した質問3での複数参加者の文量は平均して54文字となっており、単数参加者の文字数は24文字となっており、両者の間には2倍以上となっている。また、表-13には1回目、3回目の複数回参加者のみに着目したWSの感想を記す。こちらも双方で文量の違いが見られ、1回目では平均34文字となっている感想が、2回目では平均45文字となっており、回数を追うごとに文字数が増加していることが分かる。

(2) 複数回における学び

WS自体の関連性について、ヒアリング結果及び振り返りシートから得た情報を用いて分析を行った。主に1, 2回目WSより分析を開始する。

表-10 単数・複数回参加者の違い

複数/単数	役割	質問1	質問2	質問3
複数参加者	看護師A	何でも夢に向かって進める。やりたいことをやらせてくれる。仲間意識が強い	皆がものが言い合える他職種協働の仲間作り	子ども、お母さんたちに優しい病院（子どもとお年寄り）いつも安心して受診できる患者さんの立場に立った関係性がとれる。 枠を作らない ・老人の生きがいを提供できる病院
	看護師C	見切り発信の多い病院といつも思っていたがそれなりのアウトカムが出せるところ	仕組み作り、自己アピールで自分を評価してもらえ体制	今日感じた、「頑張ろう」の気持ちを維持できるようにしたい。建ち上がった病院をイメージして常にモチベーションが低下しない努力をした。他職種の方と夢を語る場が、今後も欲しい。市民の方がどんな市民病院を望まれるかも聞きたい。
単数参加者	技師	皆、よく働いた。	・みんないいアイデアを持っている。このアイデアを現実化できるように ・人間関係が大事精神的に安定していることが大事	来年定年退職します。見守っています。
	看護師	個人の都合や希望に出来るだけ添えるように考えてくれる。	人を育てるために話し合える笑顔が広がるように広い場所で集合する。宿舎や体育館、職員カフェなど	職員、外部の方に限らず、あいさつ

表-11 2, 3回目連続参加者の意見

対象WS	役職	質問1	質問2	質問3
2回目感想	看護師A	患者さんが受診しやすい親しみやすさ、数値の低さもっと気軽に患者さんが集まっていたけようにしたい患者さんは人集まるから。	決定事項が未満まで通らないところ、一同に顔を合わせる機会をもっと増やしたい	建て替わってグランドオープンの時にスタッフがスキルを落とさずスタートをきれることを望んでいます。
	看護師B	患者さんに優しい病院であることを改めて感じた。“地味”だけど、アピールが下手だけどいい病院。気配り。心配りスキルは他病院に負けない物を持っている。	スタッフ同士の連携が乏しいので、もっと集まって意見交換が必要。スタッフの野心がなさすぎる。公務員として縛りを無くす。	本当に3年以内に建つか？市議の茶々に立ち向かえるか。
3回目感想	看護師A	患者さんを選ばない、いろんな疾患に対応できる。親切な隊員がいて患者さんが集まる。親しみやすい、生真面目	他社の意見が聞けてあまり知らない職員との交流がもてて、そのためには今日のような一同に会したイベントは有効で楽しい	目標を共有するために情報を含め共有できる職場にしたい。とにきく一同で集まる場を作る。
	看護師B	見切り発信の多い病院といつも思っていたがそれなりのアウトカムが出せるところ	仕組み作り、自己アピールで自分を評価してもらえ体制	今日感じた、「頑張ろう」の気持ちを維持できるようにしたい。建ち上がった病院をイメージして常にモチベーションが低下しない努力をした。他職種の方と夢を語る場が、今後も欲しい。市民の方がどんな市民病院を望まれるかも聞きたい。

表-12 単数・複数回参加者の違い

複数/単数	役割	質問1	質問2	質問3
複数参加者	技師	スタッフが誠心誠意患者さんのことを考えているところ	評価される対価として報酬よりも「感謝」という言葉が印象に残った 院内ツアー 勤務交代等して他職種を理解する。	これまで鬱積していたものを解決するよいチャンスだととらえています。「衛生」のために自分の意見をきちんと述べて他職種の意見をきくことも聞きます。後輩の育成も幅広く行います。今の時間を利用して、自分の勉強も行います。
	技師	患者さんから信頼されているところ	職員全員が一つの目標に向かって進んでいけるようにまず自分の部署他の部署を知り（院内ツアー、経営分析の仕方の勉強会（各科の収支、人件費等の計算の仕方など））いいアイデアを出せる場所を作る。	今までの経験から出せるいろいろなアイデアなどを活用していただきたい。意見を出す場が欲しい。
単数参加者	医師	やるべき時はきっちりやれるこれが継続できる空気、仕組みがあればな	vision作りチェックのための院内ツアー全体が会場、ベンジャミン	しくみづくり
	医師	根拠が低い	意見が出やすい状況を作る。	良い人を求めることも大事だが、悪い人に対して自分を見つめるように出来るようにする。

表-13 1, 3回目連続参加者の意見

対象WS	役職	質問1	質問2	質問3
1回目感想	技師A	スーパードクターが複数いることで患者さんが増えるだけでなく、良いドクターも若い医師もやる気のあるスタッフも集まってくる。	漠然としていた病院像も具体化できたし、人の意見を聞くことの大切さを感じた。	・電停から遠いのでシャトルバスを運行してほしい。 ・駐車場患者さんと職員用が必要。
	看護師A	・風通しの良い病院にしたい ・地域にも広める病院にしたい	他の意見、自分の思いつなない考えがあり、気づきがあった。	現在の職員がまた再開できるような病院であってほしい。今後の方向性が気になります。
3回目感想	技師A	採算性に関わらず、全市民のためにいろんな診療科があった。	・全職員の考え、方向性を共有することでいろんな困難も乗り越えていけると思った ・他の部署を見学するツアーを実施することで改善点も見えてくると思う。 ・全職員が集える場が必要と考える。	新病院の具体像が見えて来たら、それに必要なことを考えていきたい。
	看護師A	患者さんに優しい専門性を持って、医療看護を提供できているところ	職種から評価、あるいは褒められる環境を作ることが必要という点が広いと思った。評価される点ではなく、目に見えない、一言であったりするので非常に良いことだと思います。	他の病院にない部分、公的病院にしかできない部分として、地域に目に向けた医療に取り組めればと思います。他の病院と違う面を表に出すことも必要ではないと思います。

a) 1, 2回目WS間の関連

1回目WS, 2回目WSはお互いを知り、仲間であるという認識を深めること、主題である「こんな市民病院で働きたい」「市民病院の○と×」より将来のビジョンを作成すること、市民病院の現状を再認識することがそれぞれ間接目的、直接目的となっていることが分かった。

まず間接目的である互いを知り、仲間である認識を深めることに着目すると、表-14に記す1回目, 2回目WSの質問3で変化が表れている。質問3は両方のWSにて同一の内容「移転再生による心配事・課題」について聞いており、参加者が同一ではなく明確な変化とは言い難いものの市民病院スタッフの傾向として変化が見て取れる。1回目WSでは、参加者が最も関心のあるテーマが、「再建後の病院のあり方」についてであるのに対し、2回目WSでは「情報の共有について」となっており、先の見えない再建後の病院に焦点が当たっていた状態から情報の共有を行い互いを理解することが課題となっている点から参加者側の目的となっている互いを知るという目的及びWS設計が効果を生じていると考えられる。

直接目的となっていた将来のビジョンを構想することで対比して現状を把握することについては表-14中1回目WS質問1及び2回目WS質問1, 2より読み取ることが出来る。1回目WS質問1では「風通しのよい市民病院にしたい」という意見が最も参加者の関心が高いものとなった。その後行われた2回目WS質問1, 2ではそれぞれ「親しみやすい」「コスト感覚がない、鈍い。風通しがわるい」という意見が最も多く挙がった。このことから、2回目WS感想で「親しみやすい」「コスト感覚が鈍い。風通しが悪い」といった意見が現状の利点や課題として多く挙がる背景には1回目WSの感想「風通しの良い市民病院にしたい」より市民病院のスタッフが考える風通しの良い市民病院にとって必要な要素が親しみやすく、風通しがよく、コスト感覚がしっかりしていることであることが伺える。

また、感想中に頻出したワードをみると 1 回目WSでは優しい、風通しという二つのワードについての関心が多く、2 回目WSでは良い点として優しい、悪い点として風通しというワードに関心があることが分かる。これらのことから 1 回目、2 回目間でWS自体の参加者の違いがあるにも関わらず同じ問題について考えていること、前段落の 2 回目WSの良い点、悪い点は 1 回目WSのビジョンに対するものから来ていることが考えられる。

表-14 1, 2 回目間の感想

対象WS	質問	最多の意見	頻出ワード
1回目WS	質問1	風通しの良い病院にしたい	風通し 優しい
	質問2	前向きに考えることが出来た	前向き 話す、聞く
	質問3	再建後の病院のあり方	3年後、不安 方向性
2回目WS	質問1	親しみやすい	親しみ 優しい
	質問2	コスト感覚がない、鈍い	コスト 風通し、共有
	質問3	情報の共有について	知らない、不明 目標

b) 2, 3 回目WS間の関連

2 回目WSでは、お互いを知ること、仲間であるという認識を深めることが間接目的となっており、現状を把握することが直接目的である。3 回目WSではそれまでのWSとは違い実際の提案の作成を直接目的としている。また同じく間接目的として、参加者のモチベーションの維持、向上を掲げている。この 2 つ目的を踏まえ、実際のWSの感想よりどのような学びの習得へ至ったのかを分析する。

2 回目及び 3 回目WSを関連付けてみた場合、間接目的はお互いを知り、仲間であることの再認識を行った後に提案を作成するということになる。その点に着目し表-15を見ると、3 回目WSの質問 2 で関係づくりが一番多いテーマとなっている。3 回目のWSに至るまでに参加者間での相互理解を行っていたことが参加者間に他参加者との関係を作っていくことが重要であると思わせることが出来たからこそ、関係作りがもっとも関心のあったテーマになったと考えられる。また、直接目的となっていた現状の把握、そこからの提案の作成を行うことに関しては、表-15中の 2 回目WSの質問 2、3 回目WSの質問 3 に表れている。WS設計者の意図としては、2 回目WSで生じた悪い点に対し、その内容に付随したテーマの設定を行い、最終的に各テーマごとに課題解決のための提案を作成するというものがあり、その意図に照らし合わせてみると 2 回目WSの悪い点でコスト感覚が鈍いこと、また風通しの悪さについて触れている意見が多く

見られている。この 2 回目WSの結果を踏まえて 3 回目のWSで扱う課題を風通しとして、良い点、悪い点の意見を基に課題に付随した人、目的、関係、仕組みづくりの 4 テーマを提起している。

これらの要因から、2 回目WS、3 回目WSの間で参加者はお互いの意見を知ること及びそれによる関係づくりの重要性を再確認し、課題に対する提案を作成するという学びを得ている。また、WS設計者は参加者がどのような点を課題としてとらえているのかを知り、その情報を基に提案を作成するための場を作り結果的に課題に対する提案を作成するという学びを得ている。

表-15 2, 3 回目間の感想

対象WS	質問	最多の意見	頻出ワード
2回目WS	質問1	親しみやすい	親しみ 優しい
	質問2	コスト感覚がない、鈍い	コスト 風通し、共有
	質問3	情報の共有について	知らない、不明 目標
3回目WS	質問1	優しく、親しみがある	敷居が低い 患者さん
	質問2	関係づくり	交流 知る
	質問3	職場の体制、環境づくり	体制・あいさつ

c) 複数回WS参加者の学び関連

全 3 回開催された本WSでは、4 章 4 節で述べたように、複数回WSに参加している参加者も 20 名存在している。該当する参加者の意見を見ることでWSそのものの関連性だけでなく実際に複数回参加することで得られる学びについての分析を行う。表-16は本WSに複数回参加した参加者が 3 回目WSで選択したテーマである。複数参加者は 2 つの集団に分類できるが、その両方とも関係づくりを選択している参加者が多い事が分かる。1 回目、2 回目WSはその両方で参加者同士の関係構築を間接目的としたものとなっていることから、複数参加者にはお互いの関係を重視する傾向がみられる。

1, 3 回目参加者では目的づくりが 2 番目に多いテーマとなっているのに対し、2, 3 回目参加者は目的づくりを選択した参加者は 0 人となっている。人数的な問題もあると思われるが、これに関しても 1 回目WSで将来のビジョンについて考えられており、その継続として目的づくりが選択されること、3 回目WSでは目的ではなく現状について考えていることから目的づくりに対して関心が薄くなったことが要因として考えられる。

次に複数回参加者は単数参加者と比較した際に、得ている学びの量、質に大きな違いが生じる場合がある。図-5は同じ質問に対して単数参加者と複数参加者がそれぞれ解答したものである。量に関しては 4 章 4 節で違い

があることが分かる。質は単数参加者がどのようなことを行うか、という質問に対し、1文で何を行うかのみの記事となっているが、複数参加者は行いたいことの記事だけでなく、実施するためにどのような問題点があるか、本WSは実施したいと考えている内容に対しどのような役割を示しているのかまで記載を行っており、それらの文を矢印や括弧を使用しているなど参加者自身がどの部分が学びとなって、どの部分を伝えるべきなのかについて理解していると思われる。

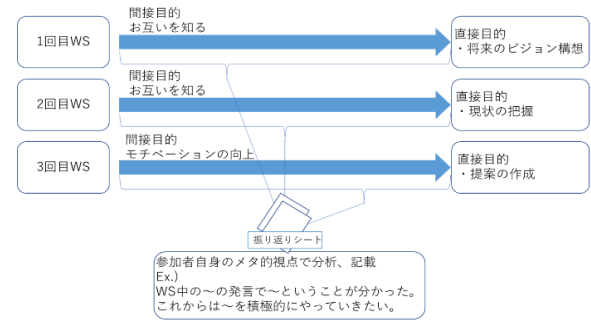


図-6 WSにおいて学びを得るための要件

表-16 複数参加者のテーマ選択

対象WS	関係づくり	目的づくり	仕組みづくり	人づくり
1-3回参加者	6	4	4	2
2-3回参加者	2	0	1	1

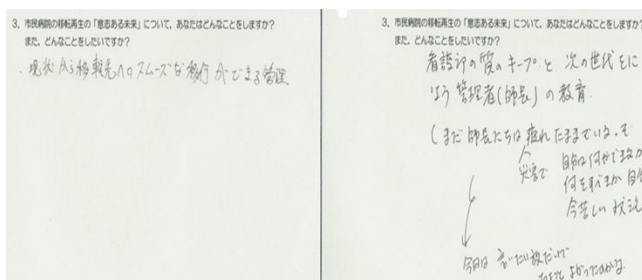


図-5 単数・複数参加者の比較（振り返りシート）

6. おわりに

(1) まとめ

今回、市民病院WSの全3回のWSを分析し、WSの中で参加者、WS設計者がどのような個所で学びを得られたのかについて図-6のようなことを知ることが出来た。

まず、WS参加者はWSの直接目的に対し、真摯に取り組む、これを達成することが前提であり、参加者はその過程で間接的な目的である学びを得ている。

そのような参加者がWSを自らで見直し、メタ的な視点を分析することでWS中の経験から学びを得ることが出来ており、WSで学びを得ているかを知る上で重要な要素となっている。また、WS設計者もWS中に出た課題に対し即時に対応することが出来る。振り返りを紙として記録することで本論文のような分析にも使用することができ、参加者自身がWSを分析し、それを活かして次のWSの学びを生むという意味合いを持つ要素として良い学びを得る際に重要になってくると考えられる。

(2) 反省・今後の展望

本論文の中では、WSの事例分析を熊本市市民病院再生WSの1事例しかできていない。実際のWSでは今回の分析結果を当てはめることが難しい形のWSもまた多く存在している点が反省点として挙げられる。今後の展望については、反省点にもあるようにより多くの事例のWSについて分析を行い、回数、参加者層の差異等の様々な形のWSに対し、良い学び、良い対話の場を得るための要素を見つけることを行っていきたい。

謝辞：本研究対象となった「熊本市市民病院再生WS」に参加して下さった皆様に感謝の意を持って本研究の結びとさせていただきます。

参考文献

- 1) 横山芳春・池田孝之・川上貴弘、参加型まちづくり手法におけるワークショップの効果と行政の対応について—那覇市都市マスタープラン策定を事例に—、日本建築学会計画系論文集、第543号、223-229、2001。
- 2) 森玲奈、学習を目的としたワークショップのデザイン過程に関する研究、日本教育工学会論文誌 34、445-455、2008
- 3) 高尾忠志、長崎市景観専門監の仕組みと成果—インハウス・スーパーバイザーのモデル的取り組み—、景観・デザイン研究講演集、No. 12、2016
- 4) 村井尚子、エピソード記述と教育的契機の記述による教育実習へのリフレクション、大阪樟蔭女子大学研究紀要 5、185-194、2015
- 5) 山内祐平・森玲奈・安斎勇樹、ワークショップデザイン論、慶応義塾大学出版会、2013
- 6) 鯨岡峻、エピソード記述入門、東京大学出版会、2005
- 7) 熊本市、熊本地震に伴う被災状況と移転再建の経緯、2016